

平成18年度

# 海外研修報告書

多摩美術大学

造形表現学部デザイン学科

高味壽雄

## 1. 研修実施日程

2006年12月11日～2007年3月9日

## 2. 研修目的

美術工芸やデザインの交流史をヨーロッパ・地中海の地を巡って実地に検証する

美術工芸やデザインにおける東西の交流を、素材・製法・紋様等美術的側面だけでなく、広く文化・宗教・社会・経済・民族・都市・建築等の歴史的社会的諸関係のなかで位置づけることに資することを旨とし、現地・現物・関係者に接し、資料収集、今後のコンタクトのネットワークを形成する。

## 3. 訪問施設と主眼

- 3.1 陶磁器・ガラス工芸・タイル美術・木工・インテリア等の美術工芸史を中心として
- 3.2 絵画・彫刻・音楽等芸術史を中心として
- 3.3 都市・街の歴史と景観・生活史を中心として
- 3.4 広場を中心として
- 3.5 宗教史と建築を中心として
- 3.5 社会・文化・学芸史と建築を中心として
- 3.7 モダンデザインとデザインの今後を中心として
- 3.8 印刷・出版・タイポグラフィ関連を中心として

## 4. 総括と今後の研究・教育のために

## 1. 研修実施日程・詳細

2006/12/11 成田→パリ (フランス)  
2006/12/12 パリ (フランス)  
2006/12/13 パリ (フランス)  
2006/12/14 パリ (フランス)  
2006/12/15 パリ (フランス)  
2006/12/16 パリ (フランス)  
2006/12/17 パリ (フランス) →リモージュ (フランス)  
2006/12/18 リモージュ (フランス)  
2006/12/19 リモージュ (フランス)  
2006/12/20 リモージュ (フランス)  
2006/12/21 リモージュ (フランス)  
2006/12/22 リモージュ (フランス)  
2006/12/23 リモージュ (フランス)  
2006/12/24 リモージュ (フランス)  
2006/12/25 リモージュ (フランス)  
2006/12/26 リモージュ (フランス) →リヨン (フランス)  
2006/12/27 リヨン・シャンベリー (フランス)  
2006/12/28 リヨン→マルセイユ (フランス)  
2006/12/29 マルセイユ (フランス)  
2006/12/30 マルセイユ・カンヌ・ヴァロリス Vallauris  
2006/12/31 マルセイユ  
2006/01/01 マルセイユ  
2006/01/02 マルセイユ→バルセロナ  
2006/01/03 バルセロナ  
2006/01/04 バルセロナ  
2006/01/05 バルセロナ→バレンシア  
2006/01/06 バレンシア  
2006/01/07 バレンシア→マドリード→トレド  
2006/01/08 トレド  
2006/01/09 トレド→コルドバ  
2006/01/10 コルドバ→グラナダ  
2006/01/11 グラナダ→マドリード  
2006/01/12 マドリード→サンティアゴ・デ・コンポステラ  
2006/01/13 サンティアゴ・デ・コンポステラ  
2006/01/14 サンティアゴ・デ・コンポステラ→ポルト (ポルトガル)  
2006/01/15 ポルト→リスボン→チュニス (チュニジア)  
2006/01/16 チュニス・カルタゴ、シディブサイド・ハマメット・ナブール  
2006/01/17 チュニス  
2006/01/18 チュニス→パレルモ (イタリア)  
2006/01/19 パレルモ→メッシーナ  
2006/01/20 メッシーナ→ナポリ  
2006/01/21 ナポリ  
2006/01/22 ナポリ→ローマ

2006/01/23 ローマ  
2006/01/24 ローマ→アッシジ  
2006/01/25 アッシジ  
2006/01/26 アッシジ→ペルージャ→アレツォ  
2006/01/27 アレツォ→フィレンツェ  
2006/01/28 フィレンツェ  
2006/01/29 フィレンツェ  
2006/01/30 フィレンツェ→ラヴェンナ  
2006/01/31 ラヴェンナ  
2006/02/01 ラヴェンナ→ファエンツァ→ラヴェンナ  
2006/02/02 ラヴェンナ→フェラツァ→ヴェネチア  
2006/02/03 ヴェネチア  
2006/02/04 ヴェネチア・ムラーノ島  
2006/02/05 ヴェネチア→ウィーン (オーストリア)  
2006/02/06 ウィーン  
2006/02/07 ウィーン→ブタペスト (ハンガリー)  
2006/02/08 ブタペスト  
2006/02/09 ブタペスト→プラハ (チェコ)  
2006/02/10 プラハ  
2006/02/11 プラハ  
2006/02/12 プラハ→ドレスデン (ドイツ)  
2006/02/13 ドレスデン  
2006/02/14 ドレスデン→マイセン  
2006/02/15 ドレスデン→クラクフ (ポーランド)  
2006/02/16 クラクフ  
2006/02/17 クラクフ・オシフィエンチム (アウシュビッツ)  
2006/02/19 クラクフ・チメルフ  
2006/02/20 クラクフ→ワルシャワ  
2006/02/21 ワルシャワ  
2006/02/22 ワルシャワ  
2006/02/23 ワルシャワ→ベルリン (ドイツ)  
2006/02/24 ベルリン  
2006/02/25 ベルリン・ライプツィヒ  
2006/02/26 ベルリン→ミュンヘン  
2006/02/27 ミュンヘン→アムステルダム (オランダ)  
2006/02/28 アムステルダム  
2006/03/01 アムステルダム→ハーグ→デルフト→ブリュッセル→ロンドン  
2006/03/02 ロンドン→オックスフォード→ストウ・オン・ザ・ウォルド  
2006/03/03 シュールズベリ  
2006/03/04 ボートン・オン・ザ・ウォーター  
2006/03/05 バーフォード  
2006/03/06 →ロンドン  
2006/03/07 ロンドン→パリ  
2006/03/08 パリ発  
2006/03/09 成田着

### 3. 訪問施設と主眼

#### 3.1 陶磁器・ガラス工芸・タイル・モザイク・木工・インテリア等の美術工芸史を中心として

ヨーロッパの美術工芸が、それぞれの地に根ざしながらも、さまざまな支配者の交替、経済の発展と社会構造の変遷、そして、東洋、およびイスラームとの密接な交流のなかで形成されてきたかを各地で実地に見聞し、またそれらを系統的に収集した実物をミュージアム等で見学。

- § パリ装飾美術館 (Musée des Arts Décoratifs/Paris, France)
- § 国立セーブル陶磁博物館 (Musée national de céramique/Sèvres, France)
- § ルーブル美術館 (Musée du Louvre/Paris, France)
- § アラブ世界研究所 (Institut du Monde Arabe /Paris, France)
- § 国立アドリアン・ドゥブーシェ陶磁博物館 (Musée national Adrien-Dubouche/ Limoges, France)
- § サン・ティリエ・ラ・ベルシェ郊外カオリン発掘場跡 (St-Yriex-la-Perches, France)
- § ロイヤル・リモージュ (Royal Limoges/Limoges, France)
- § ベルナルド工房 (Bernald/Limoges, France)
- § アトリエ・チューリピエ (Atelier Tulipier/St-Yriex-la-Perches, France)
- § その他工房見学多数
- § 陶芸美術館 (Musée de la Ceramique / Marseille, France)
- § 国立ピカソ美術館 (Musée National Picasso / Marseille, France)
- § マネリ美術館 (Musée Magnelli. / Marseille, France)
  
- § アルティガス工房 (ガリファ村)(Artigas/Spain)
- § グエル邸 (ガウディ) (Palau Güell/Barcelona, Spain)
- § バレンシア国立陶磁博物館 (Museo Nacional de Cerámica/Varencia, Spain)
- § アルハンブラ宮殿 (La Alhambra)
- § カルロス 5 世宮殿附属考古博物館 (Museo Arqueológico, Palacio de Carlos V/Granada, Spain)
- § グラナダ大聖堂 (Catedral de Granada/Granada, Spain)
  
- § カルタゴ国立博物館 (The Carthage National Museum/Carthage, Tunisia)
- § バルドー国立博物館 (The Bardo National Museum/Tunis, Tunisia)
  
- § サンタ・マリア・マッジョーレ教会 (Basilico di Santa Maria Maggiore/Rome, Italy)
- § サンタ・キアラー教会 (Basilica di Santa chiara/Napoli, Italy)
- § サン・ヴィターレ聖堂 (Basilica di San Vitale/Ravenna, Italy)
- § ファエンツァ国際陶芸博物館 (Museo Internazionale delle Ceramiche/Faenza, Italy)
- § ムラーノ島ガラス工芸美術館 (Museo Vetraio di Murano/Venezia, Italy)
  
- § マイセン磁器製作所附属博物館  
(Museum in Staatliche Porzellan-Manufaktur Meissen/Meissen, Germany)
- § ツヴィンガー宮殿磁器コレクション (Porzellansammlung in Zwinger/Dresden,Germany)
  
- § アウガルテン宮殿 (Schloss Augarten/Wien, Austria)
- § アウガルテン工房 (Augarten/Wien, Austria)
- § 美術史博物館 (Kunsthistorisches Museum/Wien, Austria)

§ ビクトリア&アルバート博物館 (Victoria & Albert Museum / London, England)

§ チメルフ工房 (Chemelow/Chemelow, Poland)

### 3.2 絵画・彫刻・音楽等芸術史を中心として

絵画や古代からの彫刻等は、それぞれのミュージアムとその収集に関する歴史的な考察・検証という背景を抜きに「純粋に」鑑賞し美術史のなかで位置づけることはできないことを各ミュージアムを見る中で考える。

§ ルーブル美術館 (Musée du Louvre/Paris, France)

§ オルセー美術館 (Musée d'Orsay/Paris, France)

§ プラド美術館 (Museo del Prado/Madrid, Spain)

§ ティッセン・ボルネミッサ美術館 (Museo de Thyssen-Bornemisza/Madrid, Spain)

§ ソフィア王妃芸術センター (Centro de Arte Reina Sofía/Madrid, Spain)

§ フリオ・ロメロ・デ・トレス美術館 (Museo Julio Romero de Torres/Córdoba, Spain)

§ ナポリ国立考古学博物館 (Museo Archeologico Nazionale/Napoli, Italy)

§ ドウオモ付属博物館 (Museo dell'Opera del Duomo/Firenze, Italy)

§ ジョットの鐘楼 (Campanile di Giotto/Firenze, Italy)

§ サン・ジョヴァンニ洗礼堂 (Battistero di San Giovanni/Firenze, Italy)

§ サン・ロレンツォ教会 (Basilica di San Lorenzo/Firenze, Italy)

§ サン・マルコ美術館 (Museo di San Marco/Firenze, Italy)

§ アカデミア美術館 (Galleria dell'Accademia/Firenze, Italy)

§ ウフィッツィ美術館 (Galleria dell'Accademia/Firenze, Italy)

§ サンタ・クロチェ教会 (Chiesa di Santa Croce/Firenze, Italy)

§ サンタ・マリア・ノヴェッラ教会 (Chiesa di Santa Maria Novella/Firenze, Italy)

§ サンタ・トリニタ教会 (Basilica di Santa Trinita/Firenze, Italy)

§ パラティーナ美術館 (Galleria Palatina/Firenze, Italy)

§ ピッティ宮 (Palazzo Pitti/Firenze, Italy)

§ サンタ・マリア・デル・カルミネ教会 (Chiesa di Santa Maria del Carmine/Firenze, Italy)

§ バルジェッロ国立博物館 (Museo Nazionale del Bargello/Firenze, Italy)

§ システィーナ礼拝堂 (Cappella Sistina/Rome, Città del Vaticano)

§ サン・フランチェスコ大聖堂 (Basilica di San Francesco/Assisi, Italy)

§ サン・マルコ寺院 (Basilica di San Marco/Venezia, Italy)

§ ドウカーレ宮殿 (Palazzo Ducale/Venezia, Italy)

§ 鐘楼 (Campanile di San Marco/Venezia, Italy)

§ 美術史博物館 (Kunsthistorisches Museum/Wien, Austria)

§ ベルヴェデーレ宮殿 (Schloss Belvedere/Wien, Austria)

§ モーツァルトハウス・ウィーン (Mozarthaus Vienna/Wien, Austria)

§ チャルトリスキ美術館 (Muzeum Czartoryskich/Cracow, Poland)

- § ドレスデン王宮 (Residenzschloß Dresden/Dresden, Germany)
- § オランダ国立博物館 (Rijksmuseum/Amsterdam, Holland)
- § マウリッツハウス王立美術館 (Mauritshuis/Den Haag/Holland)
- § ドヴォルザーク博物館 (Muzeum Antonina Dvoraka/Praha, Czech)
- § スメタナ博物館 (Muzeum Bedricha Smetany/Praha, Czech)
- § ブダペスト王宮 (Budavari Palota/Budapest, Hungary)
- § ショパン博物館 (Muzeum Fryderyka Chopina/Warsaw, Poland)

### 3.3 都市・街の歴史と景観・生活史を中心として

ヨーロッパの都市はほとんどが自治都市としての伝統を持っており、現代の中央集権「国民国家」になってもその個性と自立的な伝統、中世以来の街並みを色濃く保っている。スクラップ&ビルトと均一な郊外化が急激に進む日本の街と対比し、観察・考察する。

- § パリ旧市街 (Paris, France)
- § リモージュ旧市街 (Limoges, France)
- § サン・テリエ・ラ・ペルシェ旧市街 (St-Yriex-la-Perches, France)
- § リヨン旧市街 (Lyon, France)
- § シャンベリー旧市街 (Chambéry, France)
- § バルセロナ市歴史博物館 (Museu d'Història de la Ciutat/Madrid, Spain)
- § カタルーニャ歴史博物館 (Museu d'Història de le Catalunya/Madrid, Spain)
- § トレド旧市街 (Toledo, Spain)
- § コルドバ旧市街 (Córdoba, Spain)
- § コルドバ旧ユダヤ人街 (La Jundería/Córdoba, Spain)
- § アルカーサル (Alcázar/Córdoba, Spain)
- § グラナダ・アルバイシン地区 (Albaicin/Granada, Spain)
- § ポルト旧市街 (Porto/Portugal)
- § リスボン旧市街バイシャ (Baixa/Portugal)
- § チュニス旧市街メディナ (Medina/Tunis, Tunisia)
- § シディブサイド旧市街 (Sidi Bou Said/Tunisia)
- § カルタゴ遺跡 (Carthage/Tunisia)
- § ハマメット (Hammamet/Tunisia)
- § ナブール (Nabeul/Tunisia)
- § スパッカ・ナポリ旧市街 (Spacca Napoli/Italy)
- § 国立考古学博物館 (Museo Archeologico Nazionale/Napoli, Italia)

- § コロッセオ (Colosseo/Rome, Italy)
- § フォロ・ロマーノ (Foro Romano/Rome, Italy)
- § ポンテ・ヴィッキオ (Ponte Vecchio/Firenze, Italy)
- § アッシジ旧市街 (Assisi, Italy)
- § ペルージャ旧市街 (Perugia, Italy)
- § アレッツォ旧市街 (Arezzo, Italy)
- § ラヴェンナ旧市街 (Ravenna, Italy)
- § アカデミア橋 (Ponte dell'Accademia/Venezia, Italy)
- § リアルト橋 (Ponte di Rialto/Venezia, Italy)
  
- § クラクフ・旧ユダヤ人地区カジミエシュ (Kathedrale/Cracow, Poland)
- § バルバカン (Barbakan/Craków, Poland)
  
- § アムステルダムの LRT (Amsterdam, Holland)
- § アムステルダムの自転車 (Amsterdam, Holland)
- § アンネの家 (Anne Frankhuis/Amsterdam, Holland)
- § デルフト旧市街 (Delft/Holland)
  
- § ベルリンの壁博物館 (Haus am Checkpoint Charlie/Berlin, Germany)
- § イーストサイドギャラリー (Eastside Gallery/Berlin, Germany)
- § ストーリー・オブ・ベルリン (The Story of Berlin/Berlin, Germany)
- § ライプツィヒ旧市街 (Leipzig/Germany)
- § 聖ニコライ教会 (St.Nikolaikirche/Leipzig/Germany)
- § ドレスデン旧市街 (Dresden, Germany)
- § フ라우エン教会 (Frauenkirche/Dresden, Germany)
  
- § プラハ・マラーストラナ (Mala strana/Praha, Czech)
- § カレル橋 (Karlův most/Praha, Czech)
  
- § カールスプラッツ駅 (オットー・ワークナー・パビリオン) (Karlsplatz/Wien, Austria)

### 3.4 広場を中心として

ヨーロッパにおける広場は古代からさまざまな位置づけを与えられ、現代にまで伝えられて、それぞれの都市の中で独特な役割を果たしている。これらに匹敵するような広場らしい広場を持たなかった日本の都市と対比し、観察・考察する。

- § マドリッド・マヨール広場 (Plaza Mayor/Madrid, Spain)
- § ポトロ広場 (Plaza del Potro/Córdoba, Spain)
- § オブラドイロ広場 (Plaza del Obradoiro/Santiago de Compostela, Spain)
- § キンターナ広場 (Plaza de la Quintana/Santiago de Compostela, Spain)
- § サン・ニコラス広場／アルバイシン地区 (Pl. San Nicolas/Granada, Spain)
- § グエル公園－A. ガウディ (Barcelona, Spain)

§ オブラドイロ広場 (Plaza del Obradoiro/Santiago de Compostela, Spain)

§ ナヴォーナ広場 (Piazza Navona/Rome, Italy)

§ コムーネ広場 (Piazza del Comune/Assisi, Italy)

§ プレトーリア広場 (Piazza Pretoria/Palermo, Italy)

§ グランデ広場 (Piazza Grande/Arezzo, Italy)

§ ポポロ広場 (Piazza del Popolo/Rome, Italy)

§ スペイン広場 (Piazza di Spagna/Rome, Italy)

§ コムーネ広場 (Piazza del Comune/Assisi, Italy)

§ サン・マルコ広場 (Piazza San Marco/Venecia, Italy)

§ ストラホフ修道院 (Strahovsky klaster/Praha, Czech)

§ 旧市街広場 (Staromestske namesti/Praha, Czech)

§ 中央市場広場 (Rynek Glowny/Craków, Poland)

§ ワルシャワ旧市街広場 (Renek Starego Miasta/Walsaw, Poland)

### 3.5 宗教と建築史を中心として

キリスト教ヨーロッパ圏もイスラーム圏も、またそれが歴史的に交錯したイベリア半島などでも、建築の発展は宗教と切り離すことはできない。様々な歴史的建築様式と、また簡単には分類され得ない混じり合いを実際に見学し、書籍、写真等からは得られない実地感覚をもとに考察する。

§ ノートルダム・ド・フヴィエール寺院 (Basilique Nortre-Dame de Fourvière/Lyon, France)

§ ノートルダム・ド・ラ・ガルド寺院 (Basilique de Notre-Dame de la Garde/Marceile, France)

§ ヴァレンシア大聖堂 (Catedral/Valencia, Spain)

§ ミゲレテの塔 (Torre del Miguelete/Valencia, Spain)

§ トレド大聖堂 (Catedral/Toledo, Spain)

§ メスキータ (Mezquita/Córdoba, Spain)

§ ヴァレンシア大聖堂 (Torre del Miguelete/Valencia, Spain)

§ サグラダ・ファミリア贖罪聖堂 (Templo Expiatori de la Sagrada Familia/Barcelna, Spain)

§ グラナダ大聖堂 (Catedral de Granada/Granada, Spain)

§ 王室礼拝堂 (Capilla Real/Granada, Spain)

§ サンディアゴ・デ・コンポステーラ大聖堂

(Catedral de Santiago de Compostela/Santiago de Compostela, Spain)

§ サン・ピエトロ大聖堂 (Basilica di San Pietro/Rome, Città del Vaticano)

§ サン・フランチェスコ大聖堂 (Basilica di San Francesco/Assisi, Italy)

§ サンタ・キアラ聖堂 (Basilica di Santa Chiara/Assisi, Italy)

§ 初期キリスト教建築物群 (Ravenna, Italy)

§ ドゥオーモ (サンタ・マリア・デル・フィオーレ大聖堂) (Duomo-S.Maria del Fiore/Firenze, Italy)

§ サンタ・マリア・デッラ・サルUTE教会 (Basilica di Santa Maria della Salute/Venezia, Italy)

§ クラクフ大聖堂 (旧宮廷教会) (Kathedrale/Craków, Poland)

§ 聖マリア教会 (Koscioe Mariacki/Craków, Poland)

§ ユダヤ博物館 (Jüdisches Museum Berlin/Berlin, Germany)

§ トーマス教会・バッハ博物館 (Tormaskirche/J.S.Bach Museum/Leipzig/Germany)

§ シュテファン寺院 (Stephansdom/Wien,Austria)

§ プラハ城 (Prazsky Hrad/Praha, Czech)

§ 旧新シナゴグ (Straronove Syanagoga/Praha, Czech)

§ ユダヤ人博物館 (Zidovske muzeum/Praha, Czech)

### 3.6 社会・文化・学芸史と建築を中心として

宗教と密接に結びつきながらも、社会、文化、学芸との関係においても建築はさまざまな発展をとげている。人々の社会生活や学芸のなかで歴史的な意義を持つ建築を見学し考察する。

§ マッシモ劇場 (Teatro Massimo/Palermo, Italy)

§ パンテオン (Pantheon/Rome, Italy)

§ ピア門 (Porto Pia/Rome, Italy)

§ ゼンパー・オーパー (Semperoper/Dresden, Germany)

§ 新ナショナルギャラリー (Neue Nationalgalerie/Berlin, Germany)

§ ミュンヘン大学 (Ludwig-Maximilians-Universität/Munich, Germany)

§ 王宮 (ホーフブルク) (Hotburg/Wien,Austria)

§ アムステルダム中央駅 (Amsterdam Central Station/Amsterdam, Holland)

§ 国立マリオネット劇場 (Devadelko Rise loutek/Praha,Czech)

§ ストラホフ修道院 (Strahovsky klaster/Praha, Czech)

§ ブダペスト世紀末建築群 (Budapest, Hungary)

§ ヤギェウォ大学 (Uniersytet Jagiellonski/Craków, Poland)

§ アウシュビッツ強制収容所 (Auschwitz/Poland)

§ アウシュビッツ第二強制収容所ビルケナウ (Birkenau/Poland)

§ ワルシャワ歴史博物館 (Muzeum Histryczne Miasta Stokecznego Warszawy/Warsaw, Poland)

§ ワルシャワ蜂起記念碑 (Pomnik Poustania Warszawskiego/Warsaw, Poland)

### 3.7 モダンデザインとデザインの今後を中心として

モダン・デザインは主としてアメリカにおける大量生産・大量消費とそれを支える経済効率性・機能性を中心に発展してきたが、ヨーロッパにおいては中世、近世の重層的な歴史との対峙というかなり異なる背景を持っていたと考えている。考察を進める上での契機を実地に見る。

§ サヴォア邸 (ル・コルビュジエ) (Villa Savoye/France)

§ ユニテ・ダビタシオン (ル・コルビュジエ) (Unite d'Habitation/Marseille, France)

§ グエル邸ー A. ガウディ (Palau Güell/Barcelona, Spain)

§ カサ・ミラー A. ガウディ (Casa Milà/Barcelona, Spain)

§ バウハウス資料館 (Bauhaus Archiv Museum für Gestaltung/Berlin, Germany)

§ ケーテ・コルヴィッツ美術館 (Käte Kolwitz Museum/Berlin, Germany)

§ ミュシャ美術館 (Mucha Muzeum/Praha, Czech)

§ フランツ・カフカ展示館 (Expozice Franze Kafky/Praha, Czech)

§ セセッション (分離派会館) (Secession/Wien, Austria)

§ フンデルトヴァッサーハウス (Hundertwasserhaus/Wien, Austria)

### 3.8 印刷・出版・タイポグラフィ関連を中心として

長い歴史を持つヨーロッパにおける印刷・出版とタイポグラフィの資料を実地に見、今後の研究とデザイン教育に活用する。

§ 印刷と紙復刻博物館

(Rehabilitation Architecturale et Technique D'un Moulin a Papier/St.Leonard de Noblat/France)

§ 印刷と銀行博物館 (Musée de l'Imprimerie et de la Banque/Lyon, France)

§ ストラホフ修道院 (Strahovsky klaster/Praha, Czech)

§ その他各博物館、美術館

#### 4. 総括と今後の研究・教育のために

◎今回の海外研修では、西欧・中欧および地中海世界のひとつであるチュニジアを含め、13カ国（バチカン市国を数えれば14カ国）、約60の都市、町をめぐった。  
また、リスボン～チュニス～パレルモを除いてはほぼすべて鉄道で移動した。  
これによって、空路で点をつないだ移動では見えてこない、文化面での相違が地理的自然的にいかにか条件づけられているか、またその変化を実感することができた。

◎地理的な隔絶にも関わらず、特に地中海世界が、古代フェニキア、ギリシャ・ローマ時代以来いかに交易、植民等が行われ、美術、芸術、音楽、学芸など文化的な交流も盛んに行われたかの歴史を各地で検証できた。

◎通常日本人は、ヨーロッパはキリスト教（特にカトリック）であり、イスラームとは相容れないだろうとイメージしてしまうが、もちろん対立や支配、排斥の歴史はありながら、我々が考えているよりはるかに深くキリスト教文化とイスラーム文化は影響し合っていること、中世当時、ヨーロッパより学芸において圧倒的に先進的だったイスラーム文化の上にその後のヨーロッパ文化があることは、スペインのトレド、コルドバなどで、そしてヨーロッパ各地のミュージアム等で確認できる。

◎さまざまにめぐったヨーロッパ（チュニジアを含め）すべてを通して、キリスト教、ユダヤ教、イスラム教を問わず、宗教が人々にとって持っている日常生活および文化における歴史的な重みをあらゆる面で見取ることができる。

現代日本人になかなか理解不能のこの問題を避けてはこれからの文化交流理解も生まれまいだろう。

◎今回の渡欧で、とりわけキリスト教とイスラームとの交錯、また古代ローマ以来のユダヤ差別（ナチスによるホロコーストに至る）に注意を払いながらそれらの歴史をみてきた。これらは今の日本の若い人たちにはほとんど異質で無縁のことがらなのだが、世界のこれからにとってもっとも重要な課題に属することであり、できるかぎりわかりやすくガイダンスしていくべきだろう。

◎ヨーロッパ各地の都市の多くが古くから独自の城塞都市、自治都市等の伝統とそれぞれの独自性を持ち、現在でも日本のような単なる地方自治体とは異なること、かなりな都会でも一歩外に出ればその都市を支える農業、牧畜地帯になっていることを理解する必要がある。

第二次大戦後、同じ焼け跡から出発しながら、なぜ東京はバラックから無秩序な家屋、ビル建設の道を歩み、ドレスデンやワルシャワでは何十年かけてでも寸分たがわない旧市街を復旧させたのか、考えさせられる。

◎戦後のアメリカナイズ、高度成長のなかで、日本ではモダンデザインはこれまでの古くさいものにとってかわるものとして当然のものとして普及した。しかし、ヨーロッパにおけるモダンデザインは、中世以来の街並みや家屋が連綿と続く環境の中から、それと真剣に対峙して生み出されてきたものであり、日本でのそれとは背景がまったく異なるだろう。その歴史的な理解を抜きに表面的な模倣をはかっても実りは薄い。

---

◎これからの美術・デザイン教育において、国際的にも活躍できる視野を持ったクリエイターを育成するためにも、また国際的な文化交流にとっても、上に述べたような視点は最低限必要であり、豊富で具体的な例に気付かせ、国際的視野と歴史認識を深めさせる研究・教育に資したいと考える。